

核兵器に代わる「発明」を目指して

春日 咲音

長崎に原爆が投下されて以降、今日に至るまでにただの1度も核兵器は使用されていません。この状態を永続させるために、さまざまな国際会議の開催、交合意形成、条約の採択、そして核実験禁止や核兵器廃絶を目指す国際的な運動などが行われています。2021年1月には、核兵器の開発、製造、保有、使用を禁じる初めての国際条約である核兵器禁止条約が発効され、2023年のG7広島サミットで岸田文雄首相が「核兵器のない世界」を訴えました。ちょうどその頃、私はある本に出会いました。『迫りくる核リスク〈核抑止〉を解体する』（吉田文彦著）ⁱという本です。昨夏の学校の社会科の課題として選んだもので、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻や広島でのG7サミット開催で世界中の人々が核を意識し注目している今こそ、核の存在するこの世界に生きている1人の人間として核について考えなければいけないと強く思いました。私にとってこの本に出会えたことはとても大きなことでした。

この本の中で最も私が感銘を受けた言葉のひとつが「発明」です。これは、核のない世界のために今までにない道を常に新しく考え出す1つ1つの行動のことを表します。この「発明」という言葉で考えた時、広島サミットにおいて岸田首相は2つの「発明」をしたと私は考えます。1つ目は広島ビジョンとして核軍縮を議題にしたこと、2つ目はG7の各首脳と共に広島平和記念資料館を訪問し、核戦争の本当の姿や核兵器の使用がもたらす恐ろしい結末に触れてもらうことでそれを世界に広めたことです。しかし、残念なことに1つ目の「発明」には抑止力として核兵器を認める内容が含まれていました。

今、日本のリーダーである岸田首相に伝えたいことがあります。

核兵器に頼らなくても安全が保障されるための「発明」は進んでいるのでしょうか。

私はその新しい「発明」のためにアメリカの「核の傘」に入っている日本について考えてみました。日本は、現在もロシア、中国、北朝鮮の核保有国と隣り合わせであり、核兵器のリスクから逃れることはできません。特に北朝鮮が核実験をした際に J アラートが発令されると、正直なところ「核の傘」に入っていることは必要だと思ってしまう自分がいます。それでも、世界で唯一の被爆国である日本は「核の傘」への依存をどのようにしたら減らすことができるのか、どのようにしたら「核の傘」から外れてもだれもが安心できる安全保障を構築できるのか考えるべきだと思うのです。

今は「核の傘」の中にいても日本にできることはあると思います。それは、2022 年の核拡散防止条約の再検討会議で岸田首相が実行したように、世界に向けて核廃絶を訴え続けることです。たとえば核保有国は核兵器を使用することなくお互いの国を信頼して軍縮に努めること、北朝鮮に核廃絶のための話し合いに参加することを訴え続けることです。もうひとつあります。それは、同じアメリカの「核の傘」に入っているドイツやオーストラリアのように、核兵器禁止条約の締約国会議にオブザーバーとして参加することです。その場で、核兵器を禁止することに賛成したいが、日本の安全保障のため今はアメリカの「核の傘」の中にいなければならないという日本の状況をはっきり伝えることです。あるテレビ番組ⁱⁱでフランスのメディアが言っていたことを思い出しました。日本は同盟国に付き従うのではなく「架け橋」となる役割を担ってほしいと。締約国会議への参加は、「架け橋」になるという

新しい「発明」ができる機会になるのではないのでしょうか。そして、岸田首相には日本が「核兵器のない世界へ」という思いを決して諦めずに持ち続けていることを伝えていただきたいのです。

私は今年の8月に広島に行くことを決めています。私にできる核抑止に代わる「発明」をするために。日本の若者たちの中には被爆体験伝承者を目指したり、広島 G7 ユースサミットに参加したり、核兵器のある世界を変えていこうとそれぞれの「発明」に向けて動きだしている人々がいます。

岸田首相に伝えたいこと。それは、唯一の被爆国として日本のリーダーも、私たち日本人の1人1人も、核抑止に代わる「発明」を目指し続けるべきだということです。そして、その目指す「発明」は核のない世界、核兵器廃絶まで燃え続ける広島の平和の灯を消せる「発明」でなければならないということです。世界の中で日本こそが、核のない世界を作っていくリーダーであるということです。私は広島サミットで世界に発信した「発明」から、新たに岸田首相の核抑止に代わる「発明」が進むことを信じています。

-
- i 吉田文彦【著】 『迫りくる核リスク〈核抑止〉を解体する』（岩波新書）
 - ii NHK クローズアップ現代 密着！G7 サミット ヒロシマの思いは届いたのか
(2023 年 5 月 22 日 放送)